

実習レポート

ユン ジェホ

1. 概要

- 1) 場 所：特別養護老人ホーム、岩崎あいの郷(愛知県小牧市)
- 2) 実習期間：2007年 11月 12日(月)から
- 3) 実習内容：介護職(入居者の生活全盤を支援)で介護サービス実習

2. 実習内容

今回は12月中旬から、職人と同じ形で働きながら考えたことについて書きます。

総合的なサービス

小規模施設で総合的にサービスしている介護職員のストレスに関する研究¹の結果のように大変かも知らない。急に忙しくなった時、色んなこと²を考えながら働かなければならない時には、働くスピードが遅くなって、次のパートに負担しないようにオーバータイムする場合もあった。でも、私は総合的にサービスすることは職員の相互間に働くことの量を分別しながら働けば大変ではないと思った。

岩崎あいの郷の場合、他の施設より職員の数が多いし³、様々な部分がトップくらいだと思っているので、仕事の量を分別しながらカーバできるかも知らない。でも、他の特養で働いた経験がある職員たちから、岩崎あいの郷で総合的にサービスしていることが似ている職人が働いているところより難しくない聞いた。

岩崎あいの郷の場合、bar coder を使いながら働いているから仕事に関する communication が良く出来るし、2つの unit で一日中、一番忙しいときに両方の unit で行ったり来たりしながら働く職人が配置している。

特に働くことに関しての communication を bar coder でするのは、paper work を少なくなれることだけではなく、働いていることの量を職員皆が分別できるいいことと見えた。仕事する時間には、確認することだけでサービスが止まらないで続ける。それから業務の効率化が出たと思われた。

介護職員の管理と夢

韓国の場合、3年くらい1つの施設で働いたら事情とかがあって転職することが多かった。岩崎あいの郷で働きながら関したことは、日本の場合も韓国と間違いなかったことだ⁴。それは

¹ 長三紘平、黒田研二(2007)「特別養護老人ホームにおける小規模ケアの実施と介護職員のストレスの関係」

² 必ずしなければならない事、介護職員が責任していること

³ 岩崎あいの郷にはunit leader研修のために他の施設から介護福祉士が来ている。その人たちに聞いた限り。

⁴ 色んな施設で働いて転職して岩崎あいの郷まで来た職員も含めて聞いた結果。

ヘルプマン⁵で出た内容と似ていることで、他の仕事より1つの所で仕事が慣れたら、他の所に行ってもそこですぐ慣れるし、特になりたい目標も無い状態で自分の生活が変わったら⁶すぐ転職がすることも大きいと思った。

岩崎あいの郷の場合も働いたことが3年以内の人が介護職員の6割で、転職の理由も何より生活の変更が多いと聞いた。

3. 今までの結論

パソコンを使って出来るだけ paper work を減らせることと、職人の間に仕事に関する(サービスに関する)communication を効果的にすることが、運営について大切なことと感じた。そして、同じ目標のために協力しながらする仕事はもっと効果的だった。だが、そのために一番必要だったものは communication の効率性と思った。

勉強しても大体似ている業務の量と給料。そして、どこでも転職しやすいことは、生活の変更が続いて転職することになっていると大きい要因と見えた。

4. 写真



左の上から、bar code 表、unit の中で使う携帯電話⁷、unit の事務室にあるパソコン、bar coder leader、bar coder、一日のチェックリスト、unit の事務所

⁵ 老人介護に関する日本の漫画。

⁶ 結婚などからの生活の変化

⁷ 職員と入所者の連絡と呼ぶことにも使えている。